

1. 自己点検・評価の目的、方法等について

1-1: 自己点検・評価の目的

自己点検・評価の目的: 科目「AI・データサイエンスと現代社会」は、AI・データサイエンス全学プログラムの導入教育として位置づけられ、全学部生を対象として開講しており、「[数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度\(リテラシーレベル\)](#)」に認定されています。認定の要件において、自己点検・評価活動の実施が定められており、AI・データサイエンスセンターの組織別評価委員会での評価活動をこれに充てます。

1-2: 自己点検の項目と評価基準について

項目: [「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度\(リテラシーレベル\)」の創設について\(2020年3月 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度検討会議\)](#)の3.3.1「認定教育プログラム」の要件(8)質保証(自己点検・評価)に掲げられている「審査の観点」に沿った項目としています。

自己点検内容: 別紙資料等にある関連内容を記載しています。

評価: 以下の分類に従い評価を行っています。

- S: 諸活動は極めて高い水準にある
- A: 諸活動は高い水準にある
- B: 諸活動は高い水準に至っておらず、不十分な状況にある
- C: 諸活動には重大な問題点があり、速やかな改善が求められる
- F: 評価不能一判断材料等の不足により、具体的な判断ができない

2. 科目「AI・データサイエンスと現代社会」について

2021年度より、学部間共通科目として全学部の1年次から履修可能な科目として開講しています。履修者数が多いことから、学部毎に前期(対象学部: 理工、文、国際経営、国際情報)、後期(法、経、商、総合政策)開講しています。授業は遠隔授業(オンデマンド型)で5名の講師がオムニバス形式で担当しています。科目内容、履修者数やアンケート結果等資料を御参照ください。

3. 資料等

- 1) 「AI・データサイエンスと現代社会」
- 2) シラバス(前期、後期)
- 3) 履修者実績
- 4) 授業アンケート結果集計
- 5) 授業アンケートコメント
- 6) [「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度\(リテラシーレベル\)」の創設について](#)
リンクのみ

3.「AI・データサイエンスと現代社会」自己点検・評価レポート

3-1:学内からの視点

No.	項目	自己点検内容	評価 (昨年度)
1	プログラムの履修・修得状況、学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度は1,036名が履修し、932名が単位修得した(修得率:約90%)。 ※21年度:1,119名が履修し、946名が単位修得(修得率:84.5%)。 ・本プログラム履修者数のKPIは、1年次の履修者数としている。2022年度は502名を目標としていた。実績は全学合わせて357名が1年次に履修をした。1年次履修者は昨年を下回り、目標値に対しても下回る結果となった。 ※2021年度:目標250名 実績:418名 	B (A)
2	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度、後輩等其他の学生への推奨度	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの質問項目「この授業の内容を理解し、習得できた」の評価平均は、全体平均(前期5.6、後期5.7)を下回る(前期5.3、後期5.4)となった。 ・授業アンケートの質問項目「学生が能動的に参加したくなるような授業であった」の評価平均は、全体平均(前期5.5、後期5.6)と比べて、下回る(前期:前期5.1、後期5.5)値となった。 ・質問項目「本科目の履修を後輩や友人に推奨しますか」(2022年度より設定)の評価平均は、前期5.1、後期5.3となった。今後の経年変化を確認していきたい。 	A (A)
3	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・科目開設初年度より、全学部生を対象として開講している。 ・全ての学部生から履修がなされた。 	S (S)

3-2:学外からの視点

No.	項目	自己点検内容	評価
4	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度から開講された科目であることから、進路、活躍状況については今後対応していく。 ・大学評価で実施された「外部評価委員会」において、本科目を含む「AI・データサイエンス全学プログラム」について、委員の方より高い関心を得ている。 	F (B)
5	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<ul style="list-style-type: none"> ・5名の講師で実施している本科目は、実務経験のある講師が3名参加している。うち1名の講師はAI・データサイエンス分野の第一線で活躍する実務家であり、実際の業務経験を踏まえた講義をしている。 	A (A)

3-3: 不断の改善・進化に向けた取り組み

No.	項目	自己点検内容	評価
6	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの質問項目「この授業に対する総合的な満足度について」の評価平均は、全体平均(前期 5.5 後期 5.6)と比べて下回る値(前期 5.2、後期 5.4)となった。 ・授業アンケートの質問項目「この授業によって、新しい知識の習得、または、自身の能力の高まりや成長につながった」の評価平均は、全体平均(前期 5.7、後期 5.8)と下回る値(前期 5.4、後期 5.5)となった。 	B (A)
7	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの質問項目「講義要項(シラバス)に示されていた学習目標や内容と合致していた」の評価平均は、全体平均(前期 6.0、後期 6.1)とほぼ同じ値(前期:5.9、後期 6.2)となった。 ・授業アンケートの質問項目「担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった」の評価平均は、全体平均(前期 5.6、後期 5.8)とやや下回る値(前期 5.4、後期 5.6)となった。 	A (A)